

研修名 全体研修 幼児教育・保育

平成29年12月15日（金）10：30～12：30

講演 「小学校教育改革を見据えた乳幼児期の学び」

講師 上智大学 奈須 正裕 氏

## 1 小学校教育改革を見据えた乳幼児期の学び

### 1) これからの時代は「学力重視」

#### ①学力の意味が変わってくる

- ・保育の中でやってきたことが、大学までつながっている
- ・思い切り遊び込むことが、これからの学力を支えることになる。

#### ②学力論の2つの系譜

- ・「内容」（領域固有な知識・技能）中心→コンテンツ・ベース
- ・今までは知識を所有することが学力
- ・身につけた学力を使う事に目的があるが、今まではそうになっていない
- ・「資質・能力」（思考力、意欲、社会スキル）中心→コンピテンシー・ベース
- ・知識は使うものであって、ため込むものではない。使うための術や意欲が必要になってくる
- ・問題解決できることが学力

### 2) コンピテンシーへの注目

- ①優れた問題解決に必要な十分な要因＝コンピテンシー（資質・能力）による学力論への再定義
- ②非認知的能力の学力論への組み入れ要求
- ③教育方法の刷新、子どもを有能な学習者と捉える

### 3) 幼保小から大学まで貫く新たな学力

- ①幼保が中心的に育ててきたもの、生活科・総合の核もまたコンピテンシー
  - ・学力のイメージを変える
  - ・正解ではなく「最適解」を求め続ける力
  - ・小学校以降の教科学力についても、「活用」の学力、コンピテンシーの視座からの見直しが進行中
  - ・「最初学歴」としての幼保から小・中・高・大、さらに一生涯を支え続ける確かな「学力」としての、コンテンツとコンピテンシーの調和的な育成

## ②変わってきた小学校の授業

- ・現実の社会に存在する本物の実践に、可能な限り近づけて学びをデザインする
- ・手続きではなく、意味の理解こそが学力
- ・現実の世界と数理的処理の間の「変換」過程の重視

## 4) 子ども観の転換と教育方法の刷新

### ①深い学びと浅い学び

- ・ドリルや丸暗記などの意味が発生しない学びは浅い学び
- ・意味の発生とは、その子が所有する知識・経験と関連付く学習
- ・小学校はゼロからのスタートではない

## 5) 幼保小の間には段差があるか？

### ①教育方法には大きな段差があるが、教育内容それ自体には段差はない

- ・豊かな遊び、豊かなくらしをすることが、学力の基礎を築いていく
- ・子どもが活動の中で、不思議だと思ったこと、思う活動を進めていく

## 6) 教師の意識・まなざしの偏り

### ①幼保小の間で見られる逆転現象

- ・保育所では5歳児は大きく見えるが、小学校では1年生は幼く見える
- ・5歳児は育つが、1年生は育たない
- ・自身が身を置く校園に枠組みからのまなざしではなく、子ども達の本来の姿を察していく
- ・「現実を見てください」の前に、自身の行為が本来の子どもの底力に見合わない、理不尽な「現実」を生み出している可能性を内省する必要がある

## 2 感想

日々の生活の中で、「学力」という言葉を頭に置きながら、保育を進めることはあまりなかったが、保育の中でやってきたことが、大学までつながっていく。そして、それは「学力」を支えることになる。とても、興味深い内容の講演でした。「学力」の意味が変わり、正解ではなく“最適解”を求める力が必要とされる中、少しでも“新しい意味での学力”の基礎を積み重ねていけるように、意欲的な活動を積極的に進めていきたい。

(記録 精華町立いけたに保育所 富岡智佳)